創世記　第１章　26 節

「神は仰せられた。『さあ、人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて、彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。』」

感染症で亡くなる人の数の報道が絶えることがない。亡くなるひとり一人に家族がおられ、最悪の事態に直面するその日まで互いに懸命な思いで見守ってきたはずである。それでも叶わない、報われることのない闘いはある。無力感から解放される日がくるだろうか。

それにしても、東欧の街々、大地に轟く爆発音、立ち上がる黒煙、空をつんざく閃光、いずれの兵器の下には数えきれない人々が住んでいる。やがて、通りには戦車が現れ、銃口が向けられ、残虐な行為が立て続けに起こる。いのち奪われる市民、幼子、母、若者、そこに生きる者たちのいのちが人の手によって踏みにじられる。病による死ではない。略奪による死である。

手を下す者、いのち奪われる者、どちらも神が仰せられて造ってくださった存在である。われわれのかたちとして、われわれに似せて、と思いを込めて造られた者たちである。造ってくださり、その目的まで示された。それなのに主なる神の作品を、人が作品を容赦なく扱い滅ぼしている。言語に絶する暴挙、罪深く、神の怒り、嘆きは計り知れない。

2022 年 4 月 15 日